小　学　校

令和６年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　研究構想図 ・・ 2

Ⅲ　調査研究①実態把握と手だての考案 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

Ⅳ　研究の手だて ・・・ 5

Ⅴ　検証授業及び考察 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

〈検証授業１〉・・ 9

〈検証授業２〉・・ 10

〈検証授業３〉・・ 11

Ⅵ　調査研究②成果の分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

Ⅶ　研究の成果と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

研究主題

自己のよさや可能性を認識し、学級会で生かそうとする児童の育成

～個人のめあての共有や振り返りの価値付けを通して～

Ⅰ　研究主題設定の理由

「東京都教育施策大綱」（東京都　令和３年３月）では、「未来の東京」に生きる子供たちに求められる資質として「自分の可能性を自分で認め、自己肯定感や自己有用感を持って、（中略）その持てる力を不断に伸ばし、発揮していくことができるようにする」ことが示されている。

上記のことと関連して、小学校学習指導要領解説特別活動編では、「集団における合意形成では、同調圧力に流されることなく、批判的思考力をもち、他者の意見も受け入れつつ自分の考えも主張できるようにすることが大切である。そして、異なる意見や考え方を基に、様々な解決の方法を模索したり、折り合いを付けたりすることが、『互いのよさや可能性を発揮しながら』につながるのである。」と示されている。

しかし、「令和６年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）の結果では、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」、「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に「当てはまる」と回答した児童の割合はそれぞれ 32.2％、47.4％と半数以下で課題が見られた。一方で、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループは、「学校に行くのは楽しい」、「自分にはよいところがあると思う」と回答した児童の割合が最も高かった。

このことから、特別活動においても、個別最適な学びと協働的な学びを実現するための手だてを講じた上で集団における合意形成を図ることで、自己のよさや可能性を認識でき、個人の資質・能力の向上が図れると考えた。

そこで、学級活動(1)「学級や学校における生活づくりの参画」における個別最適な学びと協働的な学びを実現するために、以下のとおり研究を進めることとした。

個別最適な学びについて

一人一人が自分に合った形で学級会に参加できるようにする。そのために、教師は学級会への多様な参加の形を提示し、これを基に児童は学級会への個人のめあてを決め、振り返りをする。

協働的な学びについて

個人のめあてを達成しようとする姿を互いに認め合えるようにする。そのために、個人のめあてを共有してから学級会に臨み、友達のよさについて振り返る時間を設ける。

手だて(「学級会ブック」)について

上記の学びを実現するために、表計算ソフトを使用して、学級会への多様な参加の形、個人のめあて、話し合うことに対しての考え、振り返り等の各シートを１ファイルにまとめた「学級会ブック」を作成した。一人１台の学習者用端末（以下「学習者用端末」という。）で、「学級会ブック」に入力した個人のめあてを共有し、振り返りにおいて互いに認め合う際に活用する。さらに、教師が児童の振り返りを価値付けることで、児童は自分に合った形で学級会に参加することができ、自己のよさを認識することができるようになると考えた。

以上のことから、研究主題を「自己のよさや可能性を認識し、学級会で生かそうとする児童の育成～個人のめあての共有や振り返りの価値付けを通して～」と設定した。

Ⅱ　研究構想図

【共通テーマ】

全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現

【今日的な教育課題】

「東京都教育施策大綱」（東京都　令和３年３月）では、「未来の東京」に生きる子供の姿として「自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる」ことが示されている。そのために求められる資質として、「自分の可能性を自分で認め、自己肯定感や自己有用感を持って、(中略) その持てる力を不断に伸ばし、発揮していくことができるようにする」と示されている。

【児童の実態】

「令和６年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）では、以下の質問に対して「当てはまる」の回答が半数以下である。

・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
・自分には、よいところがあると思いますか。

また、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループは、「学校に行くのは楽しい」、「自分にはよいところがあると思う」と回答した割合が最も高かった。

【育てたい児童像】

○自己のよさや可能性を認識できる児童
○「一人一人が自分に合った形[1]」で学級会に参加する児童

【研究主題】

自己のよさや可能性を認識し、学級会で生かそうとする児童の育成
～個人のめあての共有や振り返りの価値付けを通して～

【研究仮説】

学級会において、教師が「学級会ブック[2]」を活用し、個人のめあての共有や振り返りの価値付けを行うことで、児童は、自分に合った形で学級会に参加し、自己のよさや可能性を認識し、学級会で生かそうとするだろう。

【研究方法】

調査研究　児童の意識や実態を調査し、手だての考案や成果と課題を分析する。
検証授業　仮説や手だての効果を検証する。

【評価・分析方法】

○個人のめあての共有や振り返りの価値付けから、自分に合った形で学級会に参加し、自己のよさや可能性を認識し、学級会で生かそうとすることができたかを分析する。
○検証授業後の実態調査の分析

[1]「一人一人が自分に合った形」とは、話すことが得意な児童も苦手な児童も、個人のめあてに向かって、学級会で発言したり、友達の意見を聞いたりする姿のことである。
[2]「学級会ブック」とは、児童が、学級会で頑張りたいことや頑張ったことを視覚的に表現し、児童同士で共有したり、教師がコメントをしたりできるものである。

Ⅲ　調査研究①実態把握と手だての考案

１　調査の概要

(1)　実施時期及び目的

ア　９月

研究主題を踏まえ、児童の「学級会への参加意欲」「学級会への参加の仕方」を調査し、効果的な手だてを考案するために実態調査をする。

イ　11 月

個人のめあての共有や振り返りの価値付けを通し、児童が自分のよさや可能性を認識し、学級会で生かそうとすることができたか検証する。

(2)　調査方法

Web アンケート（選択式・記述式)、「学級会ブック」の記述分析

(3)　調査対象

ア　９月

教育研究員所属校の４、５、６学年児童及び特別支援学級児童　1,026 人

イ　11 月

教育研究員所属校の部員の担当学級児童　244 人

２　Web アンケート項目

質問１　学級会で楽しいときはどのようなときですか。

選択肢：発言できたとき
友達の意見を聞いているとき
みんなで意見を決められたとき
友達の心配や不安を解決したとき
近くの人と相談するとき
いろいろな意見のよさを生かせたとき
友達に自分の意見を言ってもらったとき
司会グループを助けることができたとき
友達のがんばりやよさに気付けたとき
司会グループの役割を果たせたとき
自分のめあてを達成できたとき　（複数回答可）

質問２　学級会で自分のよさを発揮できているときはどのようなときですか。

選択肢：発言できたとき
友達の意見を聞いているとき
意見をまとめるとき
友達の心配や不安を解決するとき
いろいろな意見のよさを生かせたとき
司会グループを助けることができたとき
友達のがんばりやよさに気付けたとき
司会グループの役割ができたとき
分からない　（複数回答可）

質問３　あなたが学級会に参加していると感じるときはどのようなときですか。（記述式）

３　手だての考案に迫る実態調査（９月）

研究主題である「自己のよさや可能性を認識し、学級会で生かそうとする児童の育成」に迫るために、児童の「学級会への参加の仕方」を手掛かりにして調査・分析を行い、手だての考案へとつなげた。

(1)　「学級会で楽しいとき」と「自分のよさを発揮できているとき」の結果

質問１「学級会で楽しいとき」と質問２「学級会で自分のよさを発揮できているとき」の上位項目を比較したところ、どちらも「発言できたとき」が高い結果となった。記述式による回答においても、学級会に参加していると感じるときは「発言できたとき」が全体の７割となった。また、学級会で自分のよさを発揮できているときが「分からない」と回答した児童が 143 人いた。そのため、「分からない」と回答した児童に着目した。

表１　学級会で楽しいときの上位項目

みんなで意見を決められたとき	435 人
近くの友達と相談できたとき	368 人
発言できたとき	366 人

表２　学級会で自分のよさを発揮できているときの上位項目

発言できたとき	385 人
友達の意見を聞いているとき	291 人
司会グループの役割を果たせたとき	280 人
分からない	143 人

(2)　学級会で自分のよさを発揮できているときが「分からない」と回答した児童（以下、「『分からない』と回答した児童」と表記）の回答分析

「分からない」と回答した 143 人の児童が「学級会で楽しいとき」を分析したところ、「近くの友達と相談できたとき」が 13.3%、「友達の意見を聞いているとき」が 10.8%、「発言できたとき」が 6.3%であった。また、回答者全体の「学級会で楽しいとき」と比較したところ、「友達との相談」や「友達の意見を聞く」は、3.5 ポイント、2.4 ポイント高いことが分かった。

表３　「学級会で楽しいとき」の各選択肢を回答した児童の割合（９月）

学級会で楽しいとき	分からないと回答した児童	全体	差
近くの友達と相談できたとき	13.3%	9.8%	3.5 ポイント
友達の意見を聞いているとき	10.8%	8.4%	2.4 ポイント
発言できたとき	6.3%	9.7%	-3.4 ポイント

(3)　分析結果から手だての考案へ

上記の分析結果を基にし、研究主題に迫るための手だてを以下の通り考案した。

○　教師は、児童が「発言すること」以外の学級会への参加の仕方について理解するために、「友達との相談」や「友達の意見を聞く」ことも含めた多様な参加の仕方を提示する。

○　児童は、多様な参加の仕方を参考に個人のめあてを選び、児童同士でめあてを共有することで、友達のよさや可能性に着目できるようにする。

○　児童が自分のよさや可能性を認識できるように、学級会の振り返りにおいて児童同士でよさを伝え合う。また、教師は児童の振り返りを価値付ける。

上記の３点の要素を取り入れた手だてとして「学級会ブック」を作成した。

Ⅳ　研究の手だて

「学級会ブック」は４種類のシートから構成され、教師及び児童が「めあての共有」と「振り返りの価値付け」を意識しながら活用できるようにした。

１　【シート①】「学級会ブック」の説明

【シート①】は「学級会ブック」全体を説明するページとなっている（表４）。その趣旨と使い方を示すことで、どの教師が使っても、同様の効果を発揮できるよう配慮している。

表４　【シート①】「学級会ブック」の説明

「学級会ブック」とは
「学級会ブック」とは、自分が学級会で頑張りたいことや頑張ったことを言葉やグラフで表現し、友達と共有したり、先生からコメントをもらったりするものです。
「学級会ブック」の構成
【シート①】「学級会ブック」の説明 【シート②】今までの学級会の議題と提案理由等 【シート③】みんなのめあてや振り返りの一覧 【シート④】個人のめあてや振り返り （ここに「学級会参加パワー」のレーダーチャートが表示されます。）
「学級会参加パワー」とは
「やる気パワー」、「ひらめきパワー」、「できるパワー」の３点からできていて、学級会のめあてを立てるときや振り返りのときに参考にします。「学級会参加パワー」はレーダーチャートで表示されます。

めあての共有と振り返りの価値付けという趣旨を端的に伝える。

児童が全体の構成を把握できるようにする。

レーダーチャートを用いて振り返りを数値化する。

２　【シート②】今までの学級会の議題と提案理由等

【シート②】は、今回、そして今までの学級会の議題や提案理由等の一覧となっている（表５）。どのような学級会を積み重ねてきたのか記録を残すことで、児童が学級の成長を実感しやすくしている。

表５　【シート②】今までの学級会の議題と提案理由等

	議題	提案理由	決まっていること	話し合うこと
第１回学級会	係活動を始めよう	一人一人が自分のよさを生かした係活動を行うことで、学級がより明るく楽しいものになり、みんなの仲が深まっていくから。	・１つの係の人数は３人から４人。 ・月ごとに活動報告をする。	①どんな係があるとみんなの仲が深まるか。 ②どの係に入るか。 ③係の掲示物やお知らせコーナーをどうするか。
第２回学級会	クラスキャラクター総選挙をしよう	クラスのキャラクターをつくって、いろいろな掲示物や作品に登場させることで、みんながもっと６年２組を好きになれるから。	・希望者がイラストを描き、匿名で総選挙をする。 ・選ばれなかったイラストも、他の場面で使えるようにする。	①総選挙の評価基準はどうするか。 ②６年２組を好きになれるクラスキャラクターはどれか。 ③クラスキャラクターの名前はどうするか。
第３回学級会	１学期振り返り集会をしよう	様々な行事で６年生として活躍してきた。１学期の頑張りを振り返れば、２学期ももっと頑張れるから。	・教室	①何をするか。 ②１学期を振り返れる工夫をどうするか。 ③役割分担はどうするか。
第４回学級会	クラスの旗を作ろう	クラスのキャラクターで学級を好きになれたので、次はクラスの旗を作ることでみんなの気持ちが一つになれるから。	・旗は全員で作り、絵は得意な人が描く。 ・旗は教室に飾る。 ・学級目標を入れる。	①旗に何があればみんなの気持ちが一つになるか。 ②役割分担はどうするか。
第５回学級会	１年生と仲良し交流会をしよう	１年生と関わる機会が減ってきた。１年生と仲良し交流会をすることで、１年生に楽しんでもらい、最高学年としてのやりがいを感じることができるから。	・体育館 ・安全な遊び。 ・１年生が楽しめる遊び。	①何をするか。 ②１年生が楽しめる工夫はどうするか。 ③役割分担はどうするか。

３　【シート③】みんなのめあてや振り返りの一覧

【シート③】では、【シート④】の個人のページに入力した自分の意見、理由、学級会のめあて、振り返り等が一覧となり、共有できるようになっている。学級会の回数の数字を変更することで、今までの学級会の記録も確認することができる（表６）。

表６　【シート③】みんなのめあてや振り返りの一覧

このセルの数字を変更することで、以前の学級会の記録も全て見られる。

友達のめあてを確認することで、その頑張りに気付きやすくなる。また、司会グループが誰を指名するか参考にもなる。

	3	回　学級会						
出席番号	自分の意見	理由	学級会のめあて	やる気	ひらめき	できる	自分のよかったところ	友達のよかったところ
1	思い出バスケット	思い出を振り返られるから。	友達の頑張りに気付く。	4	3	3	思い出バスケットは採用されなかったけど、友達の考えに納得できた。	○○さんは、友達の意見のよいところを発言していた。
2	振り返りスライドショー	スライドで頑張りを振り返られるから。	理由を明確にして話す。	3	5	3	スライドショーが頑張りを映像で振り替えられることを明確に伝えられた。	○○さんは、自分の意見ではないことでも受け止めて納得していた。
3	振り返りトーク	頑張りを話題にしてペアで振り返られるから。	みんなの意見を大切にまとめようとする。	3	3	4	「まとめる」で、意見のよさを生かした発言ができた。	○○さんは、提案理由に沿って発言できていた。
4	振り返りスライドショー	２学期ももう一度見ることで頑張ろうと思えるから。	他の人の意見をふまえて話す。	4	5	4	○○さんの意見をふまえて、改善策を提案することができた。	○○さんが発言に困ったときに、◆◆さんが言い直してくれていた。
5	頑張った人表彰	２学期ももらおうとみんなが頑張れるから。	友達の意見を聞いて反応する。	3	2	2	発言はできなかったけれど、○○と○○についてしっかりと話を聞いて比べることができた。	○○さんは、発言はしなかったけど、よく話を聞いていた。

教師
○○と○○についてしっかり比べていたのですね。

それぞれの振り返りについて、教師が一覧で把握し、コメント入力を行うことで価値付けできる。

４　【シート④】個人のめあてや振り返り

【シート④】以降は、出席番号が入力されており、自分の番号のシートを学級会ノートとして活用することができる（表７）。ここに入力された文章や数値は【シート③】に反映され、一覧の中で確認することができる。前回の学級会の記録が残されているため、めあてを立てる際は、前回の振り返りを参考にすることができる。また、司会グループが指名を行う際に、誰がどのような意見をもち、めあてを立てているか瞬時に確認できる。

表７　【シート④】個人のめあてや振り返り

氏名	自分の意見	理由	学級会のめあて	やる気	ひらめき	できる	自分のよかったところ	友達のよかったところ
第１回学級会	生き物係	５年生で育てたメダカをまた飼いたいから。	友達の意見を聞いて反応する。	3	2	2	発言はできなかったけれど、友達の意見をしっかりと聞くことができた。	司会グループが発言していない人にも意見をうながしていた。
第２回学級会	クラスで飼っているメダカをキャラクターにする。	メダカへの愛着がさらにわくから。	理由を明確にして話せるようにする。	3	5	3	メダカへの愛着がわくことで、もっと６年２組を好きになれることを発言できた。	○○さんは、自分の意見ではないことでも受け止めて納得していた。
第３回学級会	振り返りトーク	頑張りを話題にしてペアで振り返られるから。	みんなの意見を大切にまとめようとする。	4	5	4	「まとめる」で、意見のよさを生かした発言ができた。	○○さんは、提案理由に沿って発言できていた。

５　「学級会参加パワー」による多様な参加の仕方の提示と数値化

小学校学習指導要領解説特別活動編「学級活動(1) の発達の段階に即した指導のめやす」を参考に、「学級会参加パワー」という名称で、多様な参加の仕方を示し（図１）、レーダーチャートを用いて学級会の振り返りを数値化できるようにした（図２）。めあてを立てる場面と振り返りの記入の場面では、このページを見直すことで、多様な参加の仕方を理解し、自分に合った形で学級会に参加することができるようにした。（表７）

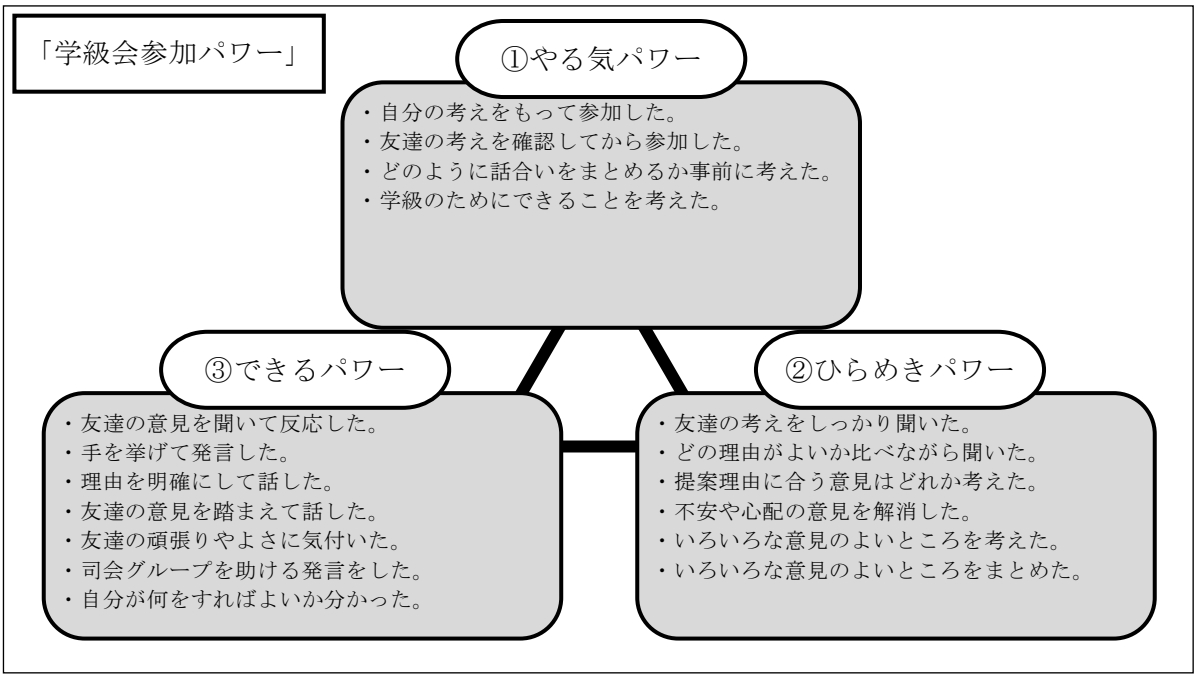

図１　多様な参加の仕方を示した「学級会参加パワー」

「学級会参加パワー」として示した学級会への多様な参加の仕方をここで数値化する。レーダーチャートの形で自分の成長を把握できるため、自己のよさや可能性を認識することや、次回の課題について考える一助となるように工夫した（図２）。

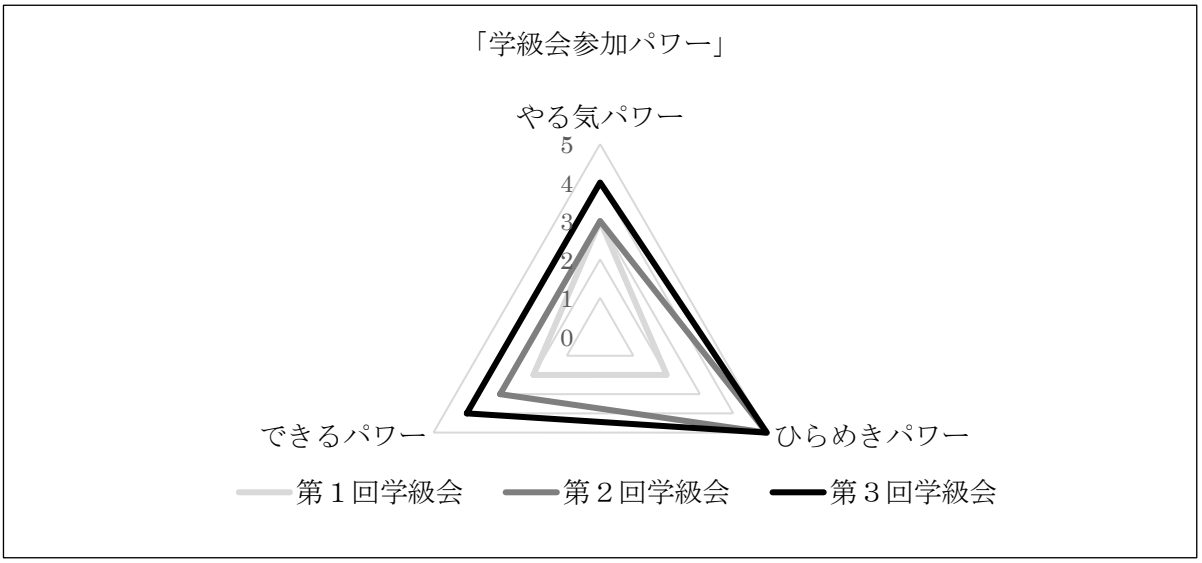

図２　「学級会参加パワー」のレーダーチャート

このような４種類のシートで「学級会ブック」は構成されている。また、表計算ソフトだけでなく、その他の統合型学習支援サービスにおいても、以下のとおり、同様の形で価値付けを行うことができるようにした。（図３は付箋機能を使用した例）

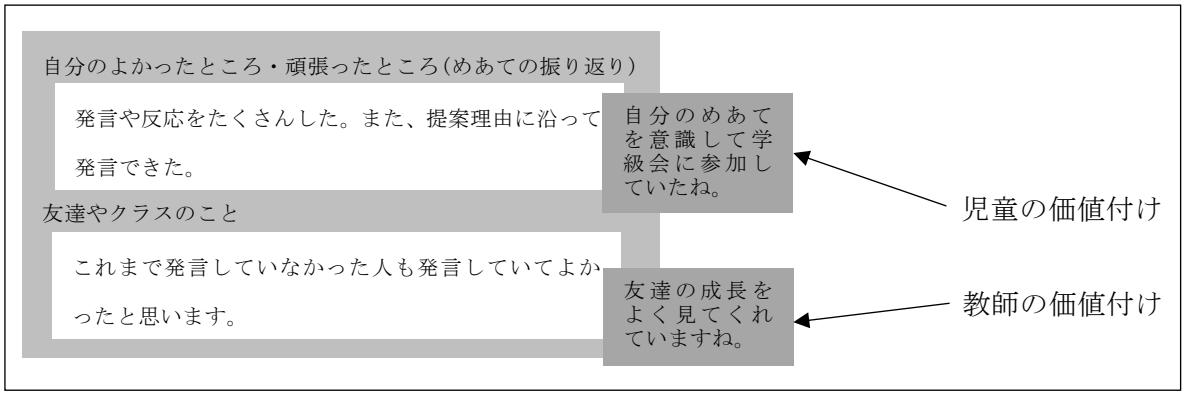

図３　付箋機能を使用した例（表計算ソフト以外の例）

Ⅴ　検証授業及び考察

１　＜検証授業１＞学級活動(1)　第６学年（実践：令和６年９月６日）

議　　題	「２学期、気合いを入れていこうパーティー」をしよう		
内容のまとまり	学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」		
提案理由	今：１学期を振り返って、様々な行事に取り組んできたが、学級としての団結力が足りない。 何をする：学級としての団結力を高める活動をする。 どうなる：様々なことに、みんなで団結して取り組めるようになる。		
※ 第５学年 及び 第６学年 の評価規準	よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。
本時のねらい	学級の団結力を高められる「２学期、気合いを入れていこうパーティー」をするために、集会の内容を考えることができるようにする。		

	●児童の活動や様子 ☆（学級会ブック）の活用	◎目指す児童の姿【観点】〈評価方法〉
事前の活動	●議題・提案理由を決め、学級で共通理解を図る。 ●計画委員会で意見の分類・整理をし、話合いの見通しをもつ。 ☆「学級会ブック」に自分のめあてを立てる。	◎「２学期、気合いを入れていこうパーティー」への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 「提案理由を意識して、意見を言いたい。」 「積極的に自分の意見を伝えたい。」 「司会として、みんなの意見を取り入れられるように、多くの人を指名したい。」 【主体的態度】〈学級会ブック〉
話合い活動	●話し合うこと１「団結力を高める工夫はどうするか。」 ●話し合うこと２「役割分担はどうするか。」 ☆自分のめあてを達成するために、学級会への参加の仕方を選択し、自分に合った形で学級会に取り組む。 ●振り返りを書く。 ☆「学級会ブック」の「やる気パワー」、「ひらめきパワー」、「できるパワー」の観点で、自分の学級会への取り組み方を自己評価する。（５段階評価） ☆「学級会ブック」に「自分のよかったところ・頑張ったところ」、「友達のよかったところ」の観点で振り返る。（記述式）	◎これまでの集会活動の経験を生かしたり、多様な意見のよさを生かしたりして、「２学期、気合いを入れていこうパーティー」の遊びの工夫について考えている。 「私は、フラフープリレーは全員でやった方がいいと思います。チーム戦だと、同じチームの友達としか関わらないので、全員で取り組んだ方が団結力が高まると思うからです。」 「私は、○○さんの意見に賛成です。チーム戦だと同じチームの人とは団結力が高まると思うけれど、学級全員の団結力は高まらないと思うからです。だから、チーム戦ではなく、学級全員でやった方が団結力が高められると思います。」 ◎団結力を高める内容はどれがよいか根拠を明確にしながら発言したり、友達の意見と比べて聞いたりしている。 「私は、フラループリレーを全員でやるという意見に付け足しで、ただ全員でやるだけでなく、記録に挑戦するといいと思います。記録に挑戦することで、チーム戦と同じようによりよい記録を出そうと、みんなの気持ちが一つになって団結して取り組めるからです。」 【思考・判断・表現】〈発言・学級会ブック〉
事後の活動	●２学期、「気合いを入れていこうパーティー」を行い、振り返りを行う。 ☆「学級会ブック」に「集会活動で頑張ったこと」、「友達やみんなのよかったところ」、「次の集会活動でやりたいこと、頑張りたいこと」の観点で振り返り、次の活動につなげる。（記述式）	◎団結力を高めるという集会のめあてを意識して、友達と協力して取り組んでいる。 【思考・判断・表現】〈集会の準備の様子・実践の様子〉 ◎団結力を高めるという視点で集会の成果と課題を振り返り、自他の頑張りに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。 【主体的態度】〈学級会ブック〉

※　本議題においては、研究主題との関連により【思考・判断・表現】及び【主体的態度】に重点を置き、評価する。

２　＜検証授業２＞学級活動(1)　第４学年（実践：令和６年 10 月７日）

議　　題	「前期がんばったね会」をしよう		
内容のまとまり	学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」		
提案理由	今：前期、みんなで力を合わせていろいろなことを頑張ってきた。 何をする：みんなで頑張りを認め合い、楽しい集会をする。 どうなる：みんなと関係が深まり、後期も仲良く取り組めるようになる。		
※ 第３学年 及び 第４学年 の評価規準	よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
	みんなで楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 意見の比べ方やまとめ方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しい学級生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図り、協力し合って実践している。	楽しい学級生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団活動に取り組もうとしている。
本時のねらい	みんなで頑張りを認め合い、楽しく取り組める「前期がんばったね会」をするために、集会の内容を考えることができるようにする。		

	●児童の活動や様子 ☆（学級会ブック）の活用	◎目指す児童の姿【観点】〈評価方法〉
事前の活動	●議題・提案理由を決め、学級で共通理解を図る。 ●計画委員会で意見の分類・整理をし、話合いの見通しをもつ。 ☆「学級会ブック」に自分のめあてを立てる。	◎「前期がんばったね会」への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 「自分の意見をみんなに伝えたい。」 「出ている意見を比べ合いながら話し合いに参加したい。」 「司会として、みんなの意見をまとめて話し合いを進めていきたい。」 【主体的態度】〈学級会ブック〉
話合い活動	●話し合うこと１「頑張りを認め合える工夫はどうするか。」 ●話し合うこと２「役割分担はどうするか。」 ☆自分のめあてを達成するために、学級会への参加の仕方を選択し、自分にあった形で学級会に取り組む。 ●振り返りを書く。 ☆「学級会ブック」の「やる気パワー」、「ひらめきパワー」、「できるパワー」の観点で、自分の学級会への取り組み方を自己評価する。（５段階評価） ☆「学級会ブック」に「自分のよかったところ・頑張ったところ」、「友達のよかったところ」の観点で振り返る。（記述式）	◎これまでの集会活動の経験を生かしたり、理由を比べ合ったりしながら、「前期がんばったね会」の遊びの工夫について考えている。 「私は、自分の頑張ったこととみんなで頑張ったことを言う意見の方が自分の頑張った思い出を言う意見と比べて、自分とみんなの両方の頑張りを認め合うことができると思います。」 ◎頑張りを認め合う内容はどれがよいか根拠を明確にしながら発言したり、友達の意見と比べて聞いたりしている。 「私は、○○さんのなんでもバスケットで頑張った思い出を言うことに賛成です。みんなが頑張ってきたことを知ることができて、認め合うことができるからです。」 「私は、友達の頑張ったところを言い合うという意見に反対です。頑張ったところを言い合うだけでは、思い出には残らないと思うからです。」 【思考・判断・表現】〈発言・学級会ブック〉
事後の活動	●「前期がんばったね会」を行い、振り返りを行う。 ☆「学級会ブック」に「集会活動で頑張ったこと」、「友達やみんなのよかったところ」、「次の集会活動でやりたいこと、頑張りたいこと」の観点で振り返り、次の活動につなげる。（記述式）	◎みんなで頑張りを認め合うという集会のめあてを意識して、友達と協力して取り組んでいる。 【思考・判断・表現】〈集会の準備の様子・実践の様子〉 ◎みんなで頑張りを認め合うという視点で集会の成果と課題を振り返り、自他の頑張りに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。 【主体的態度】〈学級会ブック〉

※　本議題においては、研究主題との関連により【思考・判断・表現】及び【主体的態度】に重点を置き、評価する。

３　＜検証授業３＞学級活動(1)　第６学年（実践：令和６年11月8日）

議　　題	６年１組オリジナルポートボール大会をしよう		
内容のまとまり	学級活動（1)「学級や学校における生活づくりへの参画」		
提案理由	今：今まで友達との関係を深める活動や協力し合う取組を行ってきた。ここで今よりももっと団結力を高め、より仲を深めたい。 何をする：チームで協力し、団結力が高まる活動を行い、自分たちで集会を進めようという意識をもって取り組む。 どうなる：自分たちで行動する力が高まり、団結力が高まる。		
※ 第５学年 及び 第６学年 の評価規準	よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者として の思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
	みんなで楽しく豊かな学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。
本時のねらい	団結力を高めるオリジナルポートボール大会を行うために、大会の内容を考えることができるようにする。		

	●児童の活動や様子 ☆（学級会ブック）の活用	◎目指す児童の姿【観点】〈評価方法〉
事前の活動	●議題・提案理由を決め、学級で共通理解を図る。 ●計画委員会で意見の分類・整理をし、話合いの見通しをもつ。 ☆「学級会ブック」に、自分のめあてを立てる。	◎友達のめあてや話合うことについての考え、その理由を確認し、見通しをもって話合いに参画できるようにする。 「ドリブルの回数を制限することで、パスが増え、協力や団結力につながる」 「自分だけの思いではなく、学級全体を考えて意見を提案できるようにする。」 【主体的態度】〈学級会ブック〉
話合い活動	●話し合うこと１「団結力を高めるためのルールの工夫はどうするか。」 ●話し合うこと２「みんなが楽しむための工夫はどうするか。」 ☆自分のめあてを達成するために、学級会への参加の仕方を選択し、自分に合った形で学級会に取り組む。 ●振り返りを書く。 ☆「学級会ブック」の「やる気パワー」、「ひらめきパワー」、「できるパワー」の観点で、自分の学級会への取り組み方を自己評価する。（５段階評価） ☆「学級会ブック」に「自分のよかったところ・頑張ったところ」、「友達のよかったところ」の観点で振り返る。（記述式）	◎これまでの集会活動の経験を生かしたり、友達の意見のよさを生かしたりして、「６年１組オリジナルポートボール大会」の内容や工夫について考えている。 「意見の付け足しで、パスが苦手な人も居ると思うので、ポジションを決めて取り組むと、チームでの交流も増え、団結力がより高まると思います。」 「今まで出た意見を整理し、団結力を高めるためのルールの工夫やみんなが楽しむための工夫はこのようにまとめてもいいですか。」 ◎団結力を高める内容はどれがよいか根拠を明確にしながら発言したり、友達の意見と比べて聞いたりしている。 「私は、一度の攻撃で全員がボールを触らないとゴールにならないというルールに賛成です。理由は全員で連携できた方が、団結力を高めることができるからです。 「私は、パスまでの時間を制限というルールに反対です。理由は、苦手な人がボールをもったときにパスを出すことができなくなってしまうからです。」 【思考・判断・表現】〈発言・意見のまとめ〉 【主体的態度】〈学級会ブック〉
事後の活動	●「６年１組オリジナルポートボール大会」の準備や実践を行い、振り返りを行う。 ☆「学級会ブック」に「集会活動で頑張ったこと」、「友達やみんなのよかったところ」、「次の集会活動でやりたいこと、頑張りたいこと」の観点で振り返り、次の活動につなげる。（記述式）	◎団結力を高めるという集会のめあてを意識して、友達と協力して取り組んでいる。 【思考・判断・表現】〈集会の準備の様子・実践の様子〉 ◎団結力の高まりや楽しく取り組めたかという視点で集会の成果と課題を振り返り、自他の頑張りに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。 【主体的態度】〈学級会ブック〉

※　本議題においては、研究主題との関連により【思考・判断・表現】及び【主体的態度】に重点を置き、評価する。

4　検証授業の考察

学級会において自己のよさや可能性を認識できるようにするために、児童が「学級会ブック」を活用し、個人のめあてを決め、レーダーチャートや文章表記での振り返りを行った。

また、教師は、一人一人に合った形で学級会に参加することができるようにするために、「学級会参加パワー」を活用して、多様な参加の仕方を示した。その上で、めあてを共有することや振り返りの価値付けを行った。

(1)　成果

ア　学習者用端末を活用した「学級会ブック」に、事前に児童が自分のめあてを入力することで、そのめあてを達成するための意欲につなげることができた。また、個人のめあてを共有することで、「積極的に自分の意見を伝えたい。」という友達のめあてに対し、司会グループが「〇〇さん、どう思いますか。」と意図的に指名して発言できるように促したり、学級全体でも友達のめあてが達成できるよう助け合ったりする姿が見られた。自分や友達のめあてが達成できることで、自分自身のよさや可能性に気付くことにつながった。

イ　振り返りの際に、児童が「自分のよかったところ」、「友達のよかったところ」を「学級会ブック」に記録し、その振り返りに対して教師が肯定的な言葉掛けや励ましの言葉を書き込むことで、児童は自覚していなかった自分のよさや可能性に気付くことができた。また、振り返りを学級全体で共有することで、「緊張したけれど、みんなの前で自分の考えを伝えることができた。」という友達の頑張りやよさに気付いたり、「〇〇が不安だったが、〇〇さんがアイデアを出してくれたおかげで不安がなくなった。」など、自分の発言が友達の助けになったことに気付いたりするなど、互いに高め合うことにもつながった。

ウ　学級会ごとに、数値化した「学級会参加パワー」(「やる気パワー」、「ひらめきパワー」、「できるパワー」) をレーダーチャートに表すことで、児童自身が自分の参加度合いを振り返り、自分が得意なことや苦手なことを知ることができた。また、学級会を積み重ねていく中で、次回はどのような方法で参加するのが自分に合っているのかなどを判断・評価できるようになった。自分の意見を伝えることに力を入れていた児童が、「自分のやりたいことばかり言っていて、あまり相手に理解されていないようだ」と気付き、提案理由に戻って説明の仕方を変えるといった行動も見られた。

(2)　課題

ア　児童が常に自分のめあてを自覚して学級会に参加することで、めあてに正対して振り返ることができるようにする。また、児童が自分の成長に気付くためには、教師の価値付けだけでなく、友達からの価値付けも大きな効果があるため、友達からのコメントをもらう時間も設定するとよい。

イ　振り返りの際に、レーダーチャートや文章表記を入力する時間を十分に確保することが難しかった。学級全体で共有するには、「学級会ブック」に入力することが効果的ではあるが、児童の実態に応じて、手書きのものを写真で撮り、共有するなどの適切な方法を選択することが必要である。

Ⅵ　調査研究②成果の分析

１　育てたい児童の姿に関する結果（11 月）

検証授業実施後、11 月に Web アンケート調査を実施し、９月実施（n=1026）と 11 月実施（n=244）の結果を比較した。まず、「学級会で自分のよさが発揮できているとき」においては、どの項目においても有意な変化は見られなかった。

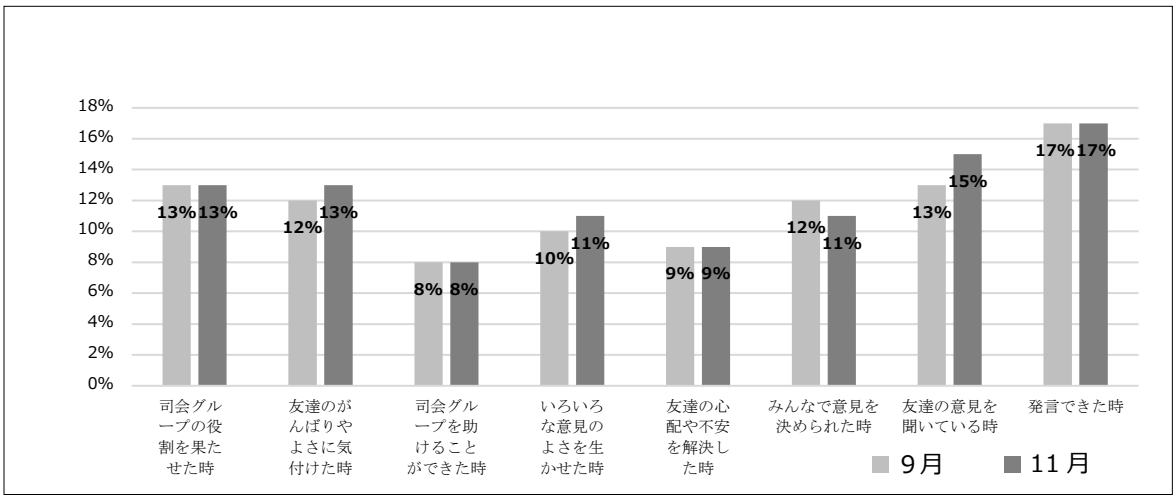

図４　「学級会で自分のよさが発揮できているとき」の９月と 11 月の全体の割合

一方で、「学級会で自分のよさを発揮できているときが『分からない』」と回答した児童の割合は、９月は全体の 6.3%、11 月は 3.2%と 3.1 ポイント減少した。

また、「分からない」と回答した児童が学級会で楽しいと感じるときについて、本研究の手だてである「めあての共有」に関する項目「自分のめあてを達成できたとき」では、９月は 11.0%、11 月は 14.1%と 3.1 ポイント上昇した。

さらに、９月の調査では「分からない」と回答したが、11 月では「分からない」以外の項目を選択した児童のめあての変容を分析した（表 10）。A児とB児を例に見てみると、９月は簡易的なめあてを立てているが、「学級会参加パワー」の三つの視点を基に価値付けを繰り返すことで、A児は思考・判断・表現につながるめあてを立てることができるようになり、B児は主体的に学習に取り組む態度につながるめあてを立てることができるようになった。

表８　「分からない」と回答した児童の割合の変化

	９月	11 月	差
「分からない」と回答した児童の割合	6.3%	3.2%	-3.1 ポイント

表９　「分からない」と回答した児童が学級会で楽しいと感じるときの割合の変化

	９月	11 月	差
自分のめあてを達成できたとき	11.0%	14.1%	3.1 ポイント

表 10　児童のめあての変容

	９月	11 月
A児（高学年）	人の意見に反応しながら聞く。 「ひらめきパワー」を基に価値付け	人の意見を大事にして、提案したいことがあったら発表する。提案理由を基に考える。
B児（高学年）	発言する人のサポートをする。 「やる気パワー」を基に価値付け	みんなと協力ができるようになるために、人任せにせず、自分から協力してそのためにも人の話を聞いていきたい。

→「学級会参加パワー」の三つの視点を基に価値付けをすることで、めあての立て方に変容が見られた。

２　育てたい児童の姿に関する分析

「学級会で自分のよさが発揮できているとき」の割合に有意な変化は見られなかった（多様な参加の仕方でよさを発揮したという意識へと変化はしなかった）が、「学級会ブック」に含まれる「学級会参加パワー」によって、児童は、「やる気パワー」、「ひらめきパワー」、「できるパワー」の中で自分が強みとして取り組めていることは何かを視覚的に確かめることができ、児童が自分のよさが何であるか認識することができた。そのため、表８の「分からない」と回答する児童が減り、よさを認識することにつながったと考える。さらに、「分からない」と回答した児童が、学級会で楽しいときは、「自分のめあてを達成できたとき」と回答している児童が増えたことは、学級会への参加の仕方について自己の目標をもち始めているという兆しであると考えられる。

また、９月の調査では「分からない」と回答したが 11 月では「分からない」以外の項目を選択した児童のめあての変容について、記述分析を行ったところ、９月は「話をしっかり聞く」、「意見を発表する」など、学級会の方法について簡易的にめあてを立てる児童が多く見られた。しかし、教師が児童の振り返りに対して、「学級会参加パワー」の視点を基に、繰り返し価値付けを行うことで、Ａ児やＢ児のように具体的に自己のよさを生かそうとするめあてを立てる児童が増えた。表８、９の項目の上昇と記述分析から、児童が自己のよさや可能性を認識し、学級会で生かそうとすることへの一定の成果があったと捉える。

３　調査研究まとめ

調査研究を通し、「学級会ブック」を活用することで、児童一人一人が自分のよさや可能性を認識し、学級会で生かそうとする態度が育まれることが分かった。しかし、全体の 3.2％の児童は「分からない」と回答している。そのため、「学級会ブック」を活用しながら、適切なめあてを立てることと振り返ることの積み重ねを通して、児童自身が自己のよさに気付けるように指導していくことが大切だと考える。

Ⅶ　研究の成果と課題

検証授業及び調査結果から、本研究の成果と課題について以下にまとめた。

１　成果

(1)　「学級会ブック」のレーダーチャートにある「学級会参加パワー」の三つの視点を与えることで、児童は学級会への多様な参加の仕方を知り、それを基にめあてを立てることができた。発言するだけではなく、意見を比べながら聞いたり、グループでの意見交換を積極的に行ったりするなど、自分に合った方法で学級会に参加する児童の姿が見られた。また、レーダーチャートを使って、学級会の振り返りを数値化したことで、児童が自身のよさや成長をより認識しやすくなった。

(2)　学級会に向けて個人のめあてを共有することで、一人一人が学級会に何を意識して臨むのかが分かり、めあてに向かって頑張る様子を認め合ったり、頑張る友達を支えようとしたりする姿が見られた。

(3)　振り返りでよかったことやがんばったことを価値付けしたことで、児童自身が自覚していなかった自分のよさに気付くことができたり、自信をもって学級会に臨んだりする姿が見られるようになった。

(4)　「学級会ブック」を活用し、個人のめあての共有や振り返りの価値付けを積み重ねていくことで、教師が児童の様子や変容を具体的に捉え、児童に合った指導に生かすことができた。

2　課題

「学級会ブック」の使い方、共有の仕方など、更に効果的な活用の仕方について検討し、誰もが取り組みやすいものにしていく必要がある。

令和６年度　教育研究員名簿

小学校・特別活動

学　校　名	職　名	氏　名
文京区立千駄木小学校	主任教諭	島田　裕代
江東区立砂町小学校	主任教諭	網　麻沙美
世田谷区立桜町小学校	主任教諭	藤井　芳子
足立区立千寿小学校	主任教諭	上野　純
江戸川区立第四葛西小学校	主任教諭	高橋　佳大
昭島市立つつじが丘小学校	主任教諭	新居　逸郎
小平市立小平第十小学校	主任教諭	香川　瑞穂
小平市立小平第十三小学校	主幹教諭	小林　達郎
武蔵村山市立第一小学校	主任教諭	久保田　晃司
稲城市立長峰小学校	主任教諭	◎田村　優樹

◎　世話人

〔担当〕東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
指導主事　関　聡司

令和６年度

教育研究員研究報告書
小学校・特別活動

令和７年３月

編　　集　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０―６８４９